

# 中堅教諭等資質向上研修の報告

国語 安保 美沙

## 1 はじめに

採用11年目を母校で迎えることができ、非常に感慨深い。それと同時に、教諭として初めての赴任であることから、気の引き締まる思いで研修を始めることになった。中堅教諭として未熟である自覚は多分にあるので、今後のキャリア形成や教員生活の見直しの意味も込めて研修に臨んだ。

## 2 研修報告

### ① センター研修

オンラインも含め、4回の研修に参加した。特に印象的だったのはⅢ期の道德教育やいじめ対策に関する研修である。学校生活の様々な折にある生徒理解の機会を効果的に活かすことや、いじめの原因になりやすい無用のストレスを与えない工夫など、日ごろの取り組みを見直す際のポイントを理解することができた。

また、Ⅱ期で教科指導についての講義・協議・演習を行った際には、6校の教員が集まる分科会であったことが活き、それまでの多彩な指導実践に基づいた意見交換が行われた。それぞれの教員の11年余りの経験知が集まる研修を経て、自分で作った授業の型に固執しすぎることなく授業展開を工夫するべきだと改めて肝に銘じることができた。

### ② 授業研修

秋田高校の1年生を対象に授業する機会をいただいた。初対面かつ一度きりの対面となる生徒に授業を行うというイレギュラーな状態であるからこそ、普段の自校の授業ではおざなりになりがちな、学習課題・活動・評価の観点を焦点化する力が試される研修であった。授業の重点を大胆に焦点化する力を研鑽していくべきだと痛切に感じたため、普段の授業でも学習事項や活動の優先順位を事前に決めておくことを心がけたい。

### ③ 選択研修

かねてより学校図書館の運営や利活用に強い関心があったため、立山文庫継承十和田図書館（鹿角市立図書館）で研修させていただいた。この図書館では、様々な外部機関との連携を積極的に行っており、必ずそれぞれのイベントに沿ったブックリストが作成されている。イベントは本や図書館に対する興味・関心を広げる活動の一環であり、公共図書館の性格である「民主的で平等な場」を実現するためにある。一方で、学校図書館はすべての生徒に平等に開かれた場所であることは言うまでもなく、そこにある知の財産や、本を介して世界を広げる機会を生徒たちにも存分に活用してもらうために様々な仕掛けを考えたい。

### ④ 特定課題研究

本校は、これまでの勤務校の中で最も進学に力を入れており、地域の進学拠点校として毎年9割以上の生徒が各種学校に進学している。その一方で、漠然とした「進学校」のイ

メージしか持たないまま入学した生徒や、多様な進路希望を持つ生徒に対する進路指導には課題が多くある。そのような現状をふまえ、また、自身の進路指導の質を向上させるためにも、学級単位で実践可能な進路活動を実践し、効果を検証することを目的とし、「学級経営の一環として効果的な進路指導」というテーマで研究を行った。

研究にあたって重視したことは、「既存のものを活用すること」「教師・生徒双方の過度な負担とならないこと」「学校という場だからこそできること」の3点である。特に3点目は、コロナ禍を経て様々な活動のリモート化・オンライン化が進んだ今だからこそ、学校という場の特性を活かし、他者との関わりや、他者の行動及びその行動の意図の可視化で相乗効果を生みたいとの思いでこだわった。幸い、協調的なクラスの雰囲気もあり、想像以上の効果を生んだ活動もある。しかしながら、全ての活動が全ての生徒にとって効果をもたらすとは限らない。そのため、今後の進路指導においても、複数の活動を組み合わせ、時期を適切に見極めつつ展開することと、活動の意義を生徒に明示することが重要である。

### 3 おわりに

中堅教諭に求められる資質の一つとして、学校運営参画意識を持つことが挙げられる。これまでの経験をふまえつつ、自校の特徴や課題を理解し、組織としてできることを積極的に提案できるよう、今後も多角的な視野を持てるよう励んでいきたい。また、年次研修は本研修が最後となるが、自己研鑽のための研修等に年に一度は参加し、常に自分を省みる姿勢を持ち続けたい。